

この本は、「仙台・宮城ミュージアムアライアンス(S M M A)」から

二〇一一年三月末日に発行、無料配布される予定でした。

印刷・製本の直前で、東日本大震災が発生し、

諸事情から発行は困難となりました。

しかしながら、関係者の仙台、宮城、

そして東北への愛情と情熱が、

このようなかたちでの出版を実現させました。

記事の中には、震災により残念ながら

すでに見ることのできなくなった部分もありますが、

むしろ震災前の貴重な記録ととらえることで、

書き直しや字句の変更は行いませんでした。

『せんだいノート』をご覧ください。

# 目次

005 さりごと — 宮城県本吉郡南三陸町で起こった物語

011 シンジュウカラガンを放つ〜エカルマ島から 八木山動物公園 阿部 敏計さん

017 天文台の小石川さんに教わる 夜の遊びかた 仙台市天文台 小石川 正弘さん

023 ノンちゃん牧場のいま

033 仙台伝統白菜のわ! 仙台朝市 今庄青果 庄子泰浩さん

明成高等学校 調理科教諭 高橋信社さん  
レストラン「スオー」オーナーシェフ 目黒浩敏さん


040 まちのアルバム 晩翠草堂



041 植物のおはなしするからね 仙台市富沢遺跡保存館

氷河期の木林を、担当学芸員と歩く (地底の森ミュージアム) 長田麻里さん

050 まちのアルバム 尾形亀之助旧宅跡

051 釜神様はどこにいる? 

056 街頭紙芝居はどこへー昔、いま、そしてこれから 紙芝居プロデューサー すすき佳子さん



062 草笛吹いて

## 065 雨の日の動物園

074 いぎやか科学館 ひっそり科学館 仙台市科学館 佐藤賢治先生  
西城光洋先生

080 「わがく」号奮闘記ー移動図書館がやってきました。 仙台市博物館館長 佐藤敏国さん

084 図録、愉し哉。

〜仙台市歴史民俗資料館の図録一覧? 

088 まちのアルバム 島崎藤村の下宿三浦屋跡 

089 糸井貫二 一期一会

097 本でつながる街に暮らす。

インタビュー

書店紹介

書籍紹介

読切りマンガ

- ・ 詩人 武田小治郎
- ・ Book House 火屋の庭 店主 前野久美子さん
- ・ 書店 R. & L. Cafe Magazine Library
- ・ Book Kiosk Book Kiosk Sasaki
- ・ Book Kiosk Cafe BOOOK
- ・ 仙台市立図書館
- ・ 仙台文庫
- ・ 風の時編集部

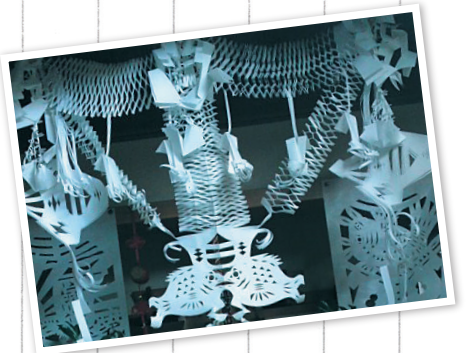
108 縄文針で釣る、海のおさかな 

30 S.M.A各館情報

29 仙台・宮城ミュージアムライフス(S.M.A)って何?

1 東北ミュージアム一覧/東北ミュージアム地図の使い方  
付録・東北各県ミュージアム施設分布地図

付録ページ (※裏面からはじまります)





# きりこ

— 宮城県本吉郡南三陸町で起こった物語 —



写真提供 = 吉川由美×南三陸町産業振興課  
写真 = SMMA事務局(p.10のみ)

## 私たちの大切なもの

私たちのミュージアムには、私たちの大切なものがたくさんあります。大切なもの。それは、たとえば美しいもの、忘れてはいけないもの、真実の証しとなるもの、ふだんの生活の中では見たり体験したりすることができないもの、先輩たちの思いや先覚者や天才たちが遺した足跡などなど、思いつく順番にならべてもいろいろです。

でも、そのすべてがミュージアムにあるわけではありません。そもそもミュージアムがない土地や時代には、たとえばその地域の権力者や実力者、あるいはその大切さをよく理解している人びと、ミュージアムより歴史が古く数も多い図書館などに集められ伝えられてきたはずです。そしてもちろん、人びとの暮らしの中でじかに伝えられ、受け継がれてきた大切なものは数えきれません。いま私たちのミュージアムにあるのは、身のまわりにある無数の大切なものの一部でしかなく、いっぽうでそんなミュージアムを支えているのは、「大切なもの」という共通の価値感であることに違いはありません。

ここにお届けする『せんだいノート』は、あえてミュージアムにこだわらず、私たちの身のまわりにある「大切なもの」との出会いを、できるだけ手を加えずありのままお伝えしようとつくりました。この冊子を手に取り、ゆっくり味わっていただくことを通じて、時間はかかっても、そこからもっと大きな価値がじんわりと育っていくきっかけをつくれればと願っています。それが私たちのミュージアムをさらに豊かにし、ひいては私たちの街を豊かにする確かな方法のひとつだと思えるからです。



一九四五年八月十五日、  
狩野ときわさん、石井桃子さん、  
二人の女性によってはじめられた開墾。  
木を倒し、地を掘り起こす。  
たいそうな重労働だったろう。  
土を肥やすため、家畜を飼い、  
汲み取った糞尿で堆肥をつくった。

一九四七年、石井桃子著  
『ノンちゃん雲に乗る』が出版され、  
数年後、その小説はベストセラーになった。  
やがては映画の原作にもなった。  
彼女は東京にいる時間が多くなってきた。  
いつからかここは「ノンちゃん牧場」  
と呼ばれるようになった。  
牛を飼った。牛乳をしぼる。  
牛は、多いときで六頭いた。  
手伝いの人も数多くいたのではないか。



# 釜神様は

どこにいます？



「怖かった」と子どもの頃を振り返る。煤で真つ黒な、怒りの形相の大きな顔。薄暗い土間で、白い盃の眼が浮かび上がっている。長い年月を経て、顔がもろもろと朽ちている。そのたまたまいが異界を思わせる。でも釜神様は、生活で身近な神様として親しまれてもいるのである。

「釜神様」は、宮城県北部と岩手県南部特有の竈の神様だ。神様なのだが、改築や新築の際に、そのほとんどが拍子抜けするほどあっさり処分されてしまう。「うちにも昔はあつたけどねえ」とか「実家には前あつたけど、捨ててしまったねえ」というような声をいくつも耳にした。釜神様はたいがい、家を新築した際に左官職人や大工によってつくられてきたのだが、近代化の波に追いやられて、というのか、数が減るばかり。

しかし、ご神体としてでなく、人の心の中での釜神様を考えてみたらどうだろう。釜神様の地でいま暮らしている人々にとっての「釜神様」とは何なのか。そして、これからどうなっていくのか。話をうかがうため、知人の暮らす登米市豊里と大崎市鳴子に出かけた。



鳴子で見つけた釜神様。



## 畏れ・親しさ

「子どものころは、こーんな大きくて怖かったんだけどねえ。でも大人になってあらためて見たら、小さいもんだなあ」

いまでも台所の壁の上の方に釜神様をかけている登米市豊里の遠藤耕一さん。両方の腕をおもいきり広げて、笑いながら話してくれた。

また、子どもの見張り番も釜神様の大事な役割だったようだ。「釜神様が見てるから、悪いことはするなってよく言われたなあ」とはいえ大人たちはみな、釜神様をうやまうとともに、まるでいつも一緒にいるのがあたりまえで気にもかけないかのように、とても親しげなのだ。それは子どもの頃に覚えた恐怖心の裏返しなのか、それとも幼なじみのような感覚なのか。

「釜神様は特殊な神様で、ほかの神様とは明らかに違う。生活に密着した神様だね」と教えてくれたのは、大崎市鳴子鬼首地区公民館館長の大山厚昭さん。大崎市立鬼首小学校の昇降口にいる釜神様。これは、むかし勤務していた先生が彫って置いていったものだという。ほかにも、趣味で二つほどつくってみた、という人もいた。神様なのに、そんな気軽につくってしまっているのだろうか……。



## 釜神音頭、ドウモネ

昭和六二年から、平成一七年に合併して登米市の一部となるまで、豊里町には「釜神くん」というイメージキャラクターがいた。

ハアー  
釜神はドウモネ

暗い社で幸せはこぼ

けむりとほりのスけた顔で

強くやさしく火を守り

若い力をそだてえ来たソレ

あなた  
貴男の故郷夢の里

花の咲く町

ああく花と釜神の里

ア・ドウモドウモドウモネ



現在も町には「釜神くん」。



# 東北ミュージアム一覧

ミュージアムは、世界、あるいはその土地のさまざまな文化、風習、自然、歴史、民俗、美術、科学、技術、交通など、わたしたちの暮らしを取り巻くあらゆることに食指を伸ばし、訪れる人々に、それらのあらゆるできごとについてあらためてよく見る、よく知る機会を与えてくれる場所といえます。また、そこは思いもよらぬ知恵や創意工夫、驚嘆に満ち溢れたところともいえるでしょう。

わたしたちが暮らす仙台を含む東北においても、その先史から最先端までの豊かさやおもしろさまるごと対象とするミュージアムの楽しさは、もしかすると「東北で暮らす」ことそのものを味わい、深める機会となるかもしれません。ぜひ、リストや地図を眺め、みなさんそれぞれの関心に沿って、想いのままに足を運んでいただけたらとうれしいかぎりです。

ところで、ひとつの県にミュージアムはいくつくらいあるのでしょうか？ ざっと名称を思い浮かべてみても、そう多くは思いあたらないでしょう。調べてみると、じつは東北6県、すべての県にそれぞれ100館を超えるミュージアムがあることがわかりました。ここでは、合計910のミュージアムを一覧として記します。

## 東北ミュージアム地図の 使い方

付録

- ①ミュージアムのおおよその場所を知ることができます。
- ②その土地にどんな歴史がねむっているかを推測することができます。
- ③地図のおもしろさを味わいつつ、空想がひろがります。
- ④全ミュージアム制覇の意欲がわきます。

- ここでミュージアムとして取り上げるのは、一般にミュージアムと呼ばれている施設だけでなく、それぞれのテーマに基づき企画した展示が常設されている施設です。また、公立では、学芸員が常駐し、資料収集や随時展示をおこなう施設も取り上げました。
- 一覧にあるミュージアムは、2010年秋の時点で、掲載の承諾をいただいた施設です。皆さんがご存知のミュージアムでも、掲載を希望されなかった施設もありました。また、調査しきれなかったミュージアムもあるかもしれません。ご了承ください。
- 休館日については、定休日、振替休日、臨時・年末年始・冬季休館など各館によって異なります。お出かけの際は各施設までおたずねください。
- 財団法人、一般財団法人は（財）、株式会社は（株）、合名会社は（合名）、社会福祉法人は（社福）と省略しました。
- 県立・市町村立の表記の有無は統一されておりません。
- 国指定名勝、重要文化財等の表記は省略しました。
- 施設に付けた番号は、あくまで地図上の位置と照らし合わせるためのものであり、公立、私立、規模の大小の順ではありません。

### 【東日本大震災後の発行について】

2011年3月の東日本大震災により、一覧に掲載されているミュージアムにもさまざまな影響がありました。そこで、冊子発行に向けて、各館にあらためての調査をおこないました。同年7月末現在で休館している施設には（休館）マークを付し、閉館となった施設については、住所と電話番号の掲載を取りやめました。また、事情により震災後に掲載できなくなった施設については、欠番としました。